

## 魚 の 胃 油

KAMM, E. D.: Note on the unsaponifiable matter from the stomach oil of *Scymnoechinus lithio*. Biochem. Jour., 22, 77-79 (1928).

此軟骨魚は三月から五月にのみとれるが常に多量 (250 c.c.) の油を胃中に含んでゐる。油の組成は肝油と同然で unsaponifiable matter を 50.6% 含有す。unsaponifiable matter は 98% 迄は squalen で尚 butyl 及 selachyl alcohol の少量をも含んでゐる。一體かゝる油が果して常に胃にあるのか、又は gall bladder に貯えられてゐたのが海底 (100 尋) から引き上げられてゐる間に胃に流れこんで來たのか、又胃の常成分ならば一體いかなる rôle をもつてゐるかは將來の生物學者に残された疑問である。 (篠田 統)

## 死後強直中に起る筋肉内の化學變化

HEWER, H. R., JAIRAM, H. & SCHRYVER, S. B.: The chemical changes taking place in the proteins of muscular tissue when passing into rigor. Biochem. Jour., 22, 142-143 (1928).

Gelatin を豫め稀薄なる酸で處理しておくとか加水分解に際し多量の diamino-N を與へる。強直に際し生じた乳酸が筋肉の蛋白に働いて同様の結果を生じ得る。蛙の sartorius 及 gastrocnemius muscles を死直後、強直中並に強直の全くなくなつてからの三回にわたり 20% の HCl で加水分解する時 diamino-N は總窒素の 30%, 36% 並に 30-31% と云ふ豫期通りの結果を得た。死直後の筋は沸騰せる鹽酸に投ずる際收縮し之により乳酸の生ずるおそれある故、もし豫め urethane 又は  $\beta$ -eucaine を注射して此收縮を妨げておけば diamino-N は 26-27% となる。 (篠田 統)

## 海膽卵中の乳酸

PERLZWEIG, W. A. & GUZMAN BARRON, E. S.: Lactic acid and carbohydrate in sea urchin eggs under aerobic and anaerobic conditions. Jour. Biol. Chem., 79, 19-25 (1928).

*Arbacia punctulata* の卵を KCN を加へ窒息状態におきその乳酸量を normal のと對比するに 1-6 時間に於て 17-151% の増加を示す。次に成熟せる卵を受精せしめ 2-8 cell stage に到りし時 (受精後 73-140 分) 分析せば 10-50% の増加を示す。是等乳酸の母體としての炭水化合物を吟味するに卵中には還元糖なし。又 PRUFFER 法では glycogen を分離し得ず。しかし卵を鹽酸で加水分解したる後窒素含有物を除けば溶液は頗る還元糖に富む。 (篠田 統)